

家具よもやま話 No.7

小長谷 光

今回取りあげたのがピルグリム、チェア・テーブルです。まずはこのピルグリムの説明を少しだけしておきます。

アメリカでは美術史上、ピルグリム・ピアリアド(Pilgrim period)という期間があり、1620年にメイフラワー号でアメリカへ移住したピルグリムファザーズ(巡礼父祖)で知られる清教徒の団がニューイングランド地方に入植し広がったジャコビアン様式(イギリスにおけるルネサンス様式)が顕著な期間のことです。明確な時代のくくりはないようですが、1620年以後の17世紀を通して、と考えられます。

写真①は1675年～1700年頃のニューイングランドのもので、背板(甲板)が長方形のピルグリム、チェア・テーブルです。座高は高く19¹/₂(495.3mm)で、これ以外は寸法の記載がありません。

イス本体はホワイトオーク材、修復された甲板はパイン材で、ヒンジ(蝶番)の役割である木製のピントル(元来は船の舵の回転軸)は失われているようですが、これを長いボルトの一本通しで代用するとは荒っぽい修復をしたもので、実際に座ることはないにしてもこれでは背中に触ると思います。

写真②と③は同じもので、テーブルの状態とイスの状態の違いです。

これも1650年～1680年頃のピルグリム チェア・テーブルでマサチューセッツ州のもので、素材も①と同じで円形の甲板の直径は46¹/₂"(1181.1mm)甲板を立てた高さは56"(1422.4mm)です。座下の交差した半円形が彫刻された前板と側板で囲われた部分は引出しになっています。下部のストレッチャーはオリジナルの形を失っているようですが、写真のプロポーションは座高が低いように見える上、四辺がべったり床に接している形状は床との「なじみ」を考えれば不自然で、おそらく、①のように脚部はもう少し下に長くあり、意匠も①に近いものだったのかもしれない。

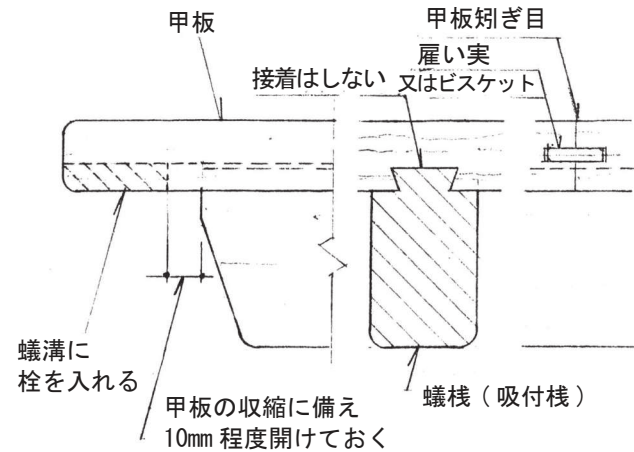
引用元の書籍によると、17世紀を通して、これぐらい十分に美的要素を備えたものは希有だということです。また甲板裏の棧はどのように甲板と接合しているのかわかりませんが、近年製作されたものでは甲板の「板反り」を防ぐため、蟻形の吸い付き棧にしているようです(図A参照)。

この2点は、共にイス本体をオーク材、甲板をパイン材にしていますが、日本でシェーカー家具やこの時代の家具を製作されているアリスファーム・藤門 弘氏の著書によると、甲板を本体のオーク材より比重の小さい針葉樹のパイン材で軽くしたほうが大きな甲板を立てた際に倒れにくい安定したものになるということです。

ともあれ、何故このようなものが存在したかを考えると、当時の限られた住環境では省スペースと多用途での使用が必然だったと言えます。また、後世では生活環境の変化から座下の収納部が業務用やトランプなどのゲーム用になったものや、イギリス以外のデザインの影響が見られるものもあります。



① Chair-tables



図A 【作図・筆者】

◆ 編集後記 ◆

★第60回インテリア設計士資格検定試験は新型コロナ禍により10月17・18日に延期となりました。試験日までまだ日数はありますが、2級取得の方々は1級への昇級をお薦めします。希望者はどうぞ事務局にご相談ください。

例年行っているビアパーティと8月のトークパルはコロナの影響で中止といたします。5人以上の会食自粛、テレワークの推進、新型コロナと共生・共存していかなければいけない状況のなか、協会活動も暗中模索です。鋭意検討したいと思っておりますので、ご意見・アドバイスをお願いいたします。(事務局)

★昨年、知人から鈴虫をいただき、せっせと世話をしました。その甲斐あって今年、二世が上手く育ち、先日の夜明け前に、微かにチリ・チリ・チリとごこちない声で鳴き始めました。今は昼間も勢いよく一斉に鳴いています。世間はCOVID-19で騒然としていますが、虫世界には関係ないようです。(と)



今城塚古墳「埴輪祭祀場」家、巫女、武士、力士、鳥など135点を超える形象埴輪が発掘されました

◆ 原稿募集 ◆ 「葉知利書」の原稿を募集しています。

- A. お気に入りの観光地(思い出の旅行記)
 - B. 私の〇〇遺産(お気に入りの建物や場所)
- ★A・Bなど題材は自由です。奮って事務局にお送りください。
文字数: 400字～600字程度 写真: 2～3枚添付下さい



大阪府インテリア設計士協会

〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14
TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553

URL <http://jp-interior.or.jp/ois>

E-mail ois@jp-interior.or.jp

facebook「大阪府インテリア設計士協会」

4・7・10・1月 4回/年発行

発行人: 河野 洋二

編集: OIS 第1事業部会

盛夏 No.111



写真: 奥田 忠彦

コロナと向き合う 会長 河野 洋二

一度、収束するかに見えた新型コロナウイルス感染者が、大阪でも増加に転じました。まだまだ予断を許しません。皆様いかがお過ごしでしょうか。

OISでは10月17日・18日に延期された検定試験を万全に行うべく、既に準備を始めました。会場の手配や、感染対策、ご指導頂く先生方への連絡等、先が見通せないなか、手探りで進んでいます。

一昨年、西日本一帯の集中豪雨でインテリア設計士検定試験始まって以来はじめて、試験が延期になりましたが、今年は日本全体と言ってよいほど、至る所で

梅雨時期の集中豪雨被害が発生しており、いよいよ、異常気象が常態化してきた感があります。

OISでは、中止されてきた会員親睦と研鑽を行う諸行事を再開するべく、タイミングを見計らっています。「Go To...」の鞭を踏まないよう慎重に判断していますので、今しばらくお待ち下さい。

これから暫く猛暑が続きますが、皆様、くれぐれも健康にお気を付け下さい。



写真でみる住宅史① 「日本の住宅史」を写真で巡ります(不定期連載)

6世紀前半古墳時代後期の「建物」、高槻市郡家新町にある、今城塚古墳から出土した『家型埴輪(はにわ)』です。

おそらく、住むためではなく「神殿」祭祀の中心的建物と思われる。高さはどれくらいだったのでしょうか。古代出雲大社は、なんと高さ16丈(48m)あったといわれています。この建物も20m位あったかもしれません。6世紀の古墳時代に、既に様式化された高層建築があったのは驚きです。墳墓が出雲の方を向いているのは偶然とは思えません。



今城塚古墳の傍らに建つ「今城塚古代歴史館」に出土品が多数展示されている

今城塚古墳は、富田台地に点在する古墳群の中にある最大級の前方後円古墳で、継体天皇陵とも言われています。古墳から葬送の儀式を現した埴輪祭祀場(はにわさいしば)が確認されました。【編集後記の写真参照】

ローマン様式立てられる現地を是非、訪れてはいかがでしょうか。(JR津湊富田駅から市バスで約10分)

日本最大の「家形埴輪」は千木(ちぎ)と堅魚木(かつおぎ)を掲げ堂々としたもので見るものを圧倒する。【W 103cm、D 78cm、H 171cm】



OISの回想録 (3)

顧問 疋田 友一

今から16年前、私が会長になって3年目の平成16年(1月30日~2月1日)、スキーサークルの第1回目として信州車山高原へ温泉・スキーツアー行った時のことです。参加者は植田さん(元会長・顧問)、杉山さん、宮本さん、北藤さん(故人)と私の男性5人、岩川さん、山口さん(旧姓森)、石渡さん、伊藤さん(現在カナダ在住)の女性4人、計9人でした。

1月30日、良く晴れた朝、阪急高速バスで大阪を出発、私だけ京都の深草から滑り込みセーフで乗車し、2時過ぎに終点のJR茅野駅につきました。バスから降りてまず向かったのは湯川温泉「河童の湯」。露天風呂で透明な湯につかり気分も爽快。その後車山高原のスキー場近くにある小粋なペンション「シェルプール」に到着。夕食は専属シェフが作る創作フレンチ料理、ワインで乾杯！美味しい料理とワインで話が盛り上がり、食後はトランプをしたりして楽しい時間を過ごしました。

翌朝も快晴で、いよいよグレンデへ行くことになり、私はここで大きな決意をしなければならなかったのです。というのは、山口さんと私以外は皆スキーのベテランで、私はスケートなら滑れるけれど、スキーは初めての経験だったのです。山口さんは写真を撮るのがメインで、スキーはされなかったのです。



グレンデで記念撮影後、リフトに乗って車山山頂に向かいました。リフトだから山頂近くまで楽に登れます。気象レーダーのある標高1,925mの山頂は360度の大パノラマ。雲一つない晴天で南アルプス、北アルプスの山々、そして小さく霞んでいましたが富士山も見え、最高に素晴らしい眺めでした。暫く感動に浸っていたところ、「さあ皆で一緒に滑って降りよう！」と号令がかかりました。「ええ～！私もですか？」と聞くともちろん滑って降りて下さい、との返事。下を見るとかなりの急こう配ではないですか。こんなの初めて、恐怖心が最高に、まさに地獄に落ちるのかと、でも仕方がない、決心するしかなかったのです。

直線しか滑れない、止まることもできない、何回も何回も横に身体を倒して止まり、立ち上がりの連続、滑るというよりも転げ落ちながら降りて汗びしょり、やっと中腹のレストランに到着。でも、この間の、私のことを3人の女性が前後でガードしてくれていました。倒れて片方のスキー板が外れて流れた時も滑り落ちたスキー板を取りに行くなど、大変なお世話のおかげで「天国」までたどり着きました。感謝の気持ちでいっぱいです。後で聞いたのですが、そこまでのコースは中級コースだったのです。

昼食後は初級コースで、これも私だけ北藤さんが専属で指導していただき、途中からは不思議なことに一人でうまく滑れるようになり、止まることもでき、左右に体重を移動しながら滑ることできるようになったのです。なんとな



く、スケートの体重移動の応用が出来たようです。私がスイスイ？と滑っているのを見て他のメンバーもびっくり。北藤先生の熱心なご指導のおかげと感謝しています。

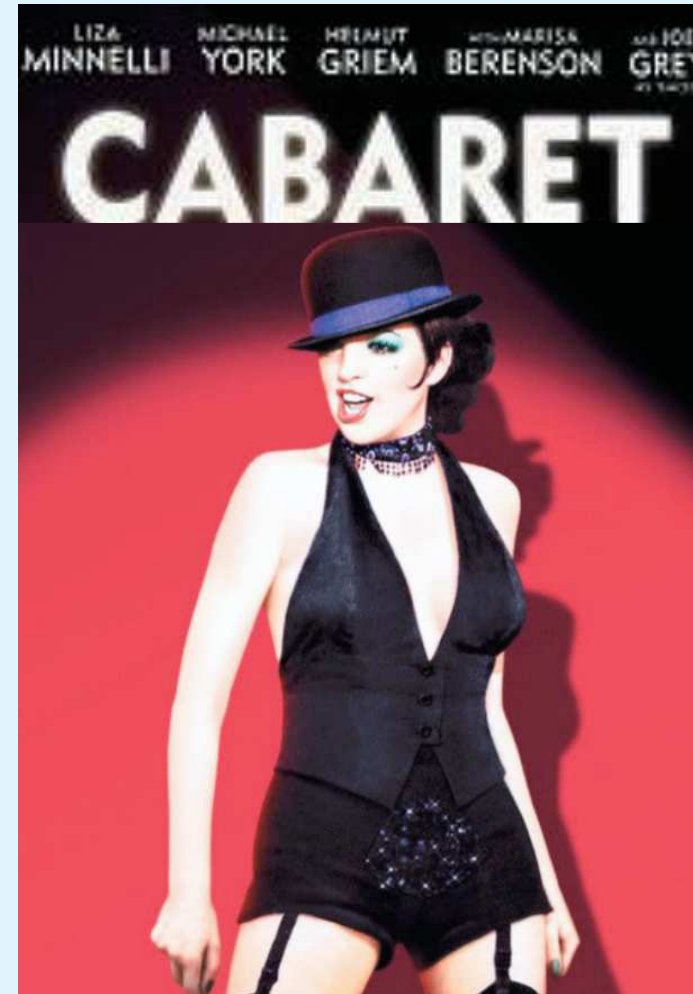
ペンションに戻り、温泉につかり足腰のマッサージ、その後は美味しい食事とワインをいただきました。食後、部屋に戻り、宮本さん自家製のワイン「宮ちゃんワイン」で乾杯！更に別腹で飲んで食べて楽しく語り合いました。夜は天体望遠鏡で星の観測。信じられないほどの星の数、本当に綺麗でした。

翌朝、6時に起床。すぐにペンションを出発。雪の林の向こうから昇る幻想的な日の出に感動しました。朝食後、ペンションを出発、備前焼の体験工房で手びねりの作品作りをし、3回目の白樺湖温泉「スズランの湯」につかり、阪急高速バスで帰路につきました。あれほどスキーで足腰を酷使したのに温泉のおかげか、筋肉痛は全く感じられませんでした。

この時の温泉・スキーツアーは、60歳以上の男性会員と若い女性会員との親睦を通じて理解が深まり、今でも有意義で楽しい思い出として心に深く残っています。その後、山口さん、石渡さん、伊藤さんの女性3人が中心となって「青年部会」を立ち上げてくれました。これが、青年部会の始まりです。これからも、OISで若い会員の方々の積極的な活躍を期待しています。



映画とインテリア No.5 今井 俊夫



今回ご紹介するのはミュージカル映画『キャバレー』(1972年/アメリカ)。監督ボブ・フォッシー/主演ライザ・ミネリ/助演ジョエル・グレイ他です。これまでアメリカ、イギリス、フランスの近代を舞台にした映画をご紹介して来ましたが、今回は、近代ドイツです。

この映画は、私が最も好きな映画のひとつで、ネトウヨが忍び寄り、ぜひ皆様に観て頂きたい作品です。時代背景にストーリー展開、配役、脚本、音楽などが充分練られ、ダンスブルな歌を交えてテンポ良く、観る者を飽きさせません。

ブロードウェイミュージカルの振り付けでは第一人者、自らダンサーでもある才人ボブ・フォッシーは、この初監督作品で、「ゴッドファーザー」のコッポラを押さえて、アカデミー賞監督賞を受賞しました。ライザ・ミネリは、母親ジュディ・ガーランド(「オズの魔法使」の天才子役)がどうしても取れなかった主演女優賞を初主演で受賞し、ジョエル・グレイも型破りな演技で助演男優賞を受賞しています。アメリカミュージカル界の真骨頂が映画になって、自宅で観られるなんて、なんと贅沢なことでしょう。

舞台は1931年、世界恐慌の嵐の中、ナチズムに傾くベルリン。そこに、ヴァイマル共和政下「狂騒の20年代」といわれる享楽の余韻が未だ残る小さなキャバレー“キット・カット・クラブ”がありました。そこでは、謎のMC(ジョエル・グレイ)が場を盛り上げ、妖艶な踊り子たちが乱舞し、異様な熱気が立ち込め、夜な夜な快楽を求める人々が入り出します。

クラブの人気者、サリー・ボウルズ(ライザ・ミネリ)は、アメリカから来た、スターを夢見て底抜けに明るい歌えるダンサーです。物語は、彼女の宿先にイギリス人留学生ブライアンが訪れるところから始まり、二人を軸としたさまざまな人間模



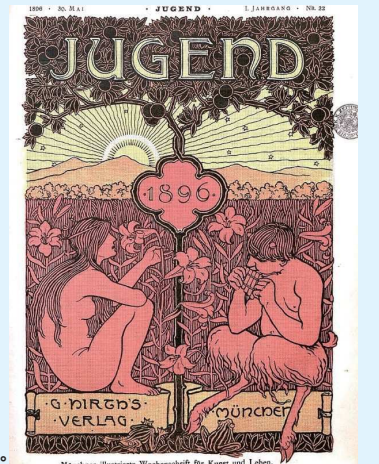
様が描かれます。今や周知のLGBTからナチス、共産主義、ユダヤなど、ドイツにおけるナチズムが台頭した時代の暗部を的確に描いているところも見逃せません。

さて、インテリアに関していえば…

サリー・ボウルズとブライアンが住もう下宿は、高級アパートの邸宅が今やシェアハウスになっており、リビング・寝室の内装や家具デザインは主に『ユーゲント・シュティール(青春様式)』のものが使われています。そこに漂う退廃的な雰囲気「世紀末」の余韻を感じます。

ユーゲント・シュティールは、ドイツにおける「アール・ヌーボー」のことで、1896年にミュンヘンで創刊された雑誌『ユーゲント(青春)』に因み命名されました。ドイツ表現主義やウィーン分離派(グスタフ・クリムト、オットー・ワグナーなど)とも同時代の動向として関連します。ユーゲント・シュティールの特徴は、「構成と装飾の一致」を理念とし、美や快楽と実用性を融合させているところです。日本の浮世絵や、イギリスのアーツアンドクラフツ運動からも大きく影響を受けました。ユーゲント・シュティールの理論的指導者アンリ・ヴァン・デ・ヴェルデがヴァイマルに設立した美術学校は、のちのバウハウスに繋がります。

暫く事務局にDVDを預けますので、暑気払いに是非ご覧下さい。ラストにライザ・ミネリが歌う「キャバレー」は、琴線に触れる音楽です。Youtubeにも上がっています。



雑誌『ユーゲント』創刊号表紙